

令和3年度第3回児童発達支援センター運営委員会【質疑】

<p>桂川委員</p>	<p>議題（1）入間市児童発達支援センター事業の運営状況について</p> <p>Q：年度比較により「元気キッズ」の活動の発展がうかがえました。利用実績の伸びについて考察としてはいかがでしょうか。</p> <p>A：相談支援事業の利用者数が上昇したのは、広報周知や地域支援事業の展開により関係機関及び市民の間に浸透しつつあることと、感染症対策の行動制限が緩和されたことで相談に行きやすくなったことが挙げられると思われます。</p> <p>Q：相談支援事業における対象者が分かりにくいと感じましたので、「事業計画」のように対象を明記されてはいかがでしょうか。</p> <p>関連して、例えば「2 相談支援事業 ②対象者の年齢層」ですが、直接相談としての対応年齢層か、間接相談（保護者が子どものことで相談）かがわかりにくいと思いました。一般的には間接相談が多いという理解かと思いますが、例えば中高生などは本人が相談に来るケースは含まないという理解でしょうか。資料2を見ると、「対象は、18歳未満の児童、家族、地域の支援機関」となっていますので、この3者を縦軸、横軸を相談内容の上の年齢層として、クロス表にしても良いかと思いました。</p> <p>A：直接・間接を問わず、相談対象の方の年齢で記載しています。直接・間接の区分については、令和4年度の事業報告に反映させたいと考えます。</p> <p>Q：相談支援事業における「オンライン相談支援」の位置付けが良く理解できませんでした。これからやっていきますということなのでしょうか。すでに令和3年度の相談件数内に内数として含むのでしょうか。</p> <p>A：令和3年度に2件の実績があり、相談件数内に含まれています。</p>
<p>上野委員</p>	<p>Q：元気キッズ利用実績について</p> <p>年々利用人数が増え、1日定員も増となっていますが、日々療育に当たる職員配置はどのようになっていますか。</p> <p>A：児童発達支援センターの職員配置基準では、児童4人：保育士1人となっていますが、元気キッズでは1日あたり定員26人：保育士・児童指導員12人という基準以上の体制を敷いています。</p> <p>Q：日中一時支援について</p> <p>未就学児の利用はリピートも含め一定数いますが、小中学生以降は0となっています。事業運営上何が要因と考えられますか。また、「切れ目のない支援」という観点から、子ども未来室検討委員会ではこの現状</p>

上野委員	<p>をどのように捉えていますか。</p> <p>A：日中一時支援の利用児童に就学児がいないのは、送迎サービスがないことが大きいと思われます。また、この点についてこども未来室検討委員会で議題に取り上げられたことはありません。</p> <p>Q：新型コロナウイルス陽性者に対する対応について 体調不良者が出た以降、どの段階でどのような情報開示をしましたか。</p> <p>A：新型コロナウイルス陽性者が確認された場合は直ぐに濃厚接触者の特定を行い、必要に応じてPCR検査を実施しました。情報開示については個人情報保護に留意し不利益につながらない範囲で行いました。</p> <p>議題（２）令和４年度入間市児童発達支援センター事業計画（案）について</p> <p>Q：子どもに直接関わっている保育士・指導員・専門職の声を直接協議会に届けてください。現場の職員が全体の仕組みを知る一端にもなり、また協議会が現場を知ることのために欠かせません。アクシデント・インシデント報告、ヒヤリハットもすべて開示され、検討される必要性があると思います。</p> <p>A：限られた時間の中で、どのような内容をどこまで運営協議会で検討するべきか、委託事業者とも今後調整して参ります。</p>
並木委員	<p>議題（３）令和３年度CLMの取り組み</p> <p>Q：CLMの取り組みを通して、子どもたちの状況が良い方向に向かっていることを知ることができましたが、仮にCLMの取り組みをしても状況が好転しない場合はどう考えますか。</p> <p>A：家族関係に様々な課題のあるご家庭では、CLMの取り組みだけでは状況を変えることが難しい事例はありました。まず導入時にCLMで期待できる効果をよく検討することが重要と考えます。家族関係の調整や生活支援が必要な場合には、担当課と連携して対応しています。</p> <p>Q：CLMの現状での課題やよりよくしていくという意味での改善点があれば教えてください（どのような対応でも万能というようなものはないかと思いますので、現状を知るといって意味で良い点とより良くしていくための改善点等を伺いたいと思います）。</p> <p>A：公立保育所１施設に各１名ずつCLM推進委員を定め、実地研修を行い各施設での推進の中心的役割を担っています。また、保健師も実地研修に参加し、CLMの理論を身に付けつつ現場との交流を図っています。</p>

